

平成 24 年度第 4 回常務理事会議事録

日 時：平成 24 年 11 月 2 日（金）15：00～17：20

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

常務理事：岩下 光利、嘉村 敏治、吉川 史隆、木村 正、峯岸 敬、八重樫 伸生、
吉川 裕之

監 事：岡村 州博、武谷 雄二

第 65 回学術集会長：櫻木 範明

理事会内委員会委員長：竹下 俊行、水上 尚典、水沼 英樹、吉村 泰典

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、
佐藤 豊実、下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、
阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿、山下 隆博

総会副議長：内田 聡子

陪席：久具 宏司

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15:00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名のうち 10 名が出席し（上妻志郎理事は欠席）、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 3 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 24 年度第 3 回常務理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

II. 業務担当常務理事報告

1) 総 務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①菊池岩雄功労会員（青森）が 10 月 13 日にご逝去された。（青森地方学会から 10 月 22 日報告受領）

②寺尾俊彦名誉会員（静岡）が 10 月 21 日にご逝去された。（弔電、供花手配済み）

(2)平成 24 年度上半期入会年度別・卒業年度別新入会員数について [資料：総務 1、2]

小西郁生理事長「最近の新入会員数の頭打ちとなっている理由はなにか、また初期研修について大部分の大学病院では産婦人科は選択必修であるがそれが頭打ちの理由になっている可能性もあり、本会として必修に戻すべきと行って行くべきか、についてご意見をいただきたい。」

岡井崇副理事長「必修化は要望していくべきである。また頭打ちの背景には、昨年産婦人科医が増えたという報道があり医師不足問題はかなり解決したという空気がある。補助金が減るなど行政の支援姿勢も弱くなっている。行政やマスコミにしっかり訴えていくことが必要である。」

水上尚典委員長「行政などに対しては、今の男女比を前提にすると 10 年後にどのような産婦人科医療の構図になるのか、みんなが安心してお産ができる社会が維持されているのか、などをシミュレーションして支援をお願いしていくことが必要である。」

木村正理事「選択必修となった外科、小児科、精神科と産婦人科は全て医師として必要な科目であり、4 科で共同して訴えていくこともいい方法だと思う。」

小西郁生理事長「臨床研修制度の見直しを行っているワーキンググループの座長、委員の先生方に必修科目見直しの要望書を提出することにしたい。」

(3) 来年度の代議員選任について

10月31日時点の会費納入者数の確定を待つ各都道府県毎の代議員定数を決定し、地方学会に来年1月31日までに代議員選任を行うよう依頼したい。

(4) 専門医制度に関する関連団体打合せ会について

10月5日にサブスペシャリティー調整委員会（日本周産期・新生児医学会、日本生殖医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本女性医学学会が出席）を開催した。本邦専門医制度が大きく変わる時期につき、研修カリキュラムや倫理、医療安全等の専門医制度に係る諸問題について協議するため、来年度も継続していきたい。

(5) 情報管理委員会について

11月30日に第1回会合を開催予定である。

(6) 役員賠償責任保険について

損害保険会社から法人向けの同種の保険設定は難しいとの回答があった。役員個人向けの保険として契約を進めたい。[資料：総務3]
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(7) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①金原出版より「子宮頸癌取扱い規約第3版」および「子宮体癌取扱い規約第3版」の増刷依頼があり承諾した。今回2,000部増刷する結果、印刷部数は全体で7,000部となる。

[資料：総務3-1]

(ハ) 周産期委員会

①抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査の中間報告案を作成した。[資料：総務4]

水上尚典委員長「広範な調査が行われたが、抗インフルエンザ薬による胎児への影響は確認できないという結論であった。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

②「早期母子接触実施の留意点」の周知の要望を、厚生労働大臣あてに関係8学会の連名で提出した。[資料：総務5]

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン2012頒布状況について

10月24日現在、入金済2,640冊、校費支払のため後払希望 56冊。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 内閣府

内閣府犯罪被害者等瀬策推進室より、ワンストップ支援センターについての本会会員あての協

力依頼を書面で受領した。地域の実態に応じて検討してほしい、とのコメントを付してホームページで会員に周知した。[資料：総務6]

(2) 環境省

環境省大臣官房廃棄物対策課および日本環境衛生センターから、平成 25 年度環境研究総合推進費による新規課題の募集案内を受領した。本会ホームページに掲載し会員に周知した。

[資料：総務7]

(3) 厚生労働省

①日本医学会を通して厚生労働省医政局研究開発振興課より、「臨床研究・治験活性化 5 か年計画 2012」アクションプランについての周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。[資料：総務8]

②厚生労働省医政局および雇用均等・児童家庭局より、平成 24 年度乳幼児突然死症候群 (SIDS) 対策強化月間の実施についての通知を受領した。ホームページに掲載して会員へ周知したい。[資料：総務8-1]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

①2015 年に京都で開催予定の第 29 回日本医学会総会の広報依頼を受領した。本会が協力できる広報の内容について、11 月末までに回答することを求めている。[資料：総務9]

②日本医学会より、平成 26 年 4 月に一般社団法人化を予定している同会が日本医学会として行うべき事項についての分科会からの意見・提案依頼を受領した。[資料：総務9-1]

(2) 日本癌学会

日本癌学会シンポジウム(平成 24 年 12 月 10 日、東京国立がんセンター国際研究交流会館)の開催案内を受領した。ホームページに掲載して会員へ周知したい。 [資料：総務10]

〔Ⅳ. その他〕

(1) 日本マタニティフィットネス協会から「マタニティ&ベビーフェスタ 2013」(平成 25 年 4 月 6、7 日、パシフィコ横浜)の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(2) FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会第 15 回学術集会(平成 24 年 11 月 23、24 日 加古川市民会館)の開催案内を受領した。

(3) 日本ビーシージー製造株式会社より、体外診断用医薬品「トキソプラズマ抗体測定用試薬」の販売を中止する旨の報告があった。[資料：総務11]

(4) 社団法人日本筋ジストロフィー協会より、50 周年記念事業の寄附依頼趣意書を受領した。[資料：総務12]

吉村泰典委員長「これまでの経緯を考えると寄附を行うのが良いと思う。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

2) 会 計 (岡井 崇副理事長)

(1) 第 64 回学術集会の会計報告および対応施策について [資料：会計1]

岡井崇副理事長「第 64 回学術集会の会計は黒字となった。公益事業は当年度黒字となった場合、

次年度は黒字になってはいけない。一部は担当校に報いるため研究助成金を増やすが、残りは第 65 回学術集会の事前登録の参加費を下げることにしたい。」

嘉村敏治理事「今後のことを考えて、黒字対応についてはルールを決めておいた方がよい。」

岡井崇副理事長「今後のことについては内規を作ることにしたいが、参加費を下げるとすればここで決定して行かないと時間的に間に合わない。」

岡村州博監事「第 64 回学術集会の会計報告は総会で報告されるとすれば、参加費が高かったのではないか、という批判は出てくるだろう。ただ毎回参加費が変わるのは良くない。公 1 事業のなかで学術集会以外の事業支出を考えないと、いつも同じ問題が起こる。」

吉川裕之理事「過去の学術集会の参加者数を見ると、北海道は参加者が少なくなるのではないか。第 64 回はうまく運営したかもしれないが、毎回黒字になる訳でもない。一旦参加費を下げてと上げることはできないので、この余剰資金を基金にして事業に使うことはできないのか。」

岩下光利理事「それは難しい。公 1 事業は学術集会事業なので、それに関連した事業なら可能だが対象がかなり限られるし、次年度までに使い切る必要がある。」

岡村州博監事「だから学術集会に関連した事業をもう少し考えてみてはどうか。」

落合和徳副理事長「事前登録の参加費を下げる案でなく、参加日数に応じた参加費にすると多忙でフルに参加できない若手医師にとっては意味がある。自分の払った参加費が全く別の事業に使われるというのは問題があるように思う。」

岡井崇副理事長「毎年収支は変わるので継続的に参加費を下げて据え置く仕組みを考えづらい。そうすると各回ごとに参加費が変わることになる。」

木村正理事「参加費を下げることや毎回参加費が変わるのはどうかと思うが、全体は変えずに事前登録だけ下げるとするのは、過去の事例でみて参加者が少なくなりやすい北海道を前提にすれば大義名分は立つように思う。」

櫻木範明第 65 回学術集会長「一度参加費を下げてと上げるのは難しい。第 64 回は参加者が過去最高だったわけで今後については慎重にシミュレーションをする必要がある。」

岡村州博監事「公益法人として、赤字であるべきものが黒字になった場合どうするか、という問題は小手先の対応ではできない。事業範囲の定義づけなど根本的なところから長期的視点に立って検討するべきだろう。」

岡井崇副理事長「長期的な観点の議論は重要だが、第 65 回への対応は喫緊の課題となる。」

小西郁生理事「参加費は変えないが、何らかの条件があれば割り引くという考え方は可能か。」

落合和徳副理事長「今回の余剰資金は恒常的なものとはいえない。よって参加費を恒常的に変えるというのは難しい。」

吉川裕之理事「例えば若手に対する交通費支援ということは考えられないか。」

落合和徳副理事長「初期研修医の参加費を下げるという考え方もある。」

吉村泰典委員長「それでは参加費が高かったからお金が余ったと思われかねない。若手育成基金を作るようなことはできないのか。」

桜田佳久事務局長「損益計算ベースなので、基金を作って対処しても黒字であることには変わらない。」

岡村州博監事「基金を作るのが難しいのならば、学術集会のなかでそれに関連する事業を行い、一方参加費は下げないということしかないのではないか。」

吉村泰典委員長「参加費は変わらないほうが良い。また参加者への支援を行うのもお金が余ったと見られる。だから第 65 回で例えば若手企画などの企画を行って支出すればよいと思う。」

櫻木範明第 65 回学術集会長「もし学術集会時にシンポジウムを開催したい先生がいればこれで対応することもできる。」

吉川裕之理事「本会の教育プログラムの講演料は無料だが、一般的には支払われるものなので、そのような変更してもよいと思う。」

岡井崇副理事長「時間も無いなかでなかなか企画を立てるのは難しいのではないか。」

吉川史隆理事「ところで研究助成金の担当校への支払は認められるのか。」

吉村泰典委員長「監査法人と相談して予算計上しており、予算より増加はしているが問題ない。」

吉川史隆理事「黒字については、企画に対して支出していくのが良いと思う。専門医制度では 3 日間の出席を前提にシールを出しているため、参加日数に応じた参加費方式は望ましくない。」

小西郁生理事長「参加費は変更せずとして、第 65 回学術集会担当校には支出を伴う企画を検討していただくことにしたい。」

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

- ①平成 24 年度学術奨励賞予備選考委員会を 12 月 13 日に開催する予定である。
- ②第 3 回学術委員会、第 3 回学術担当理事会を 12 月 14 日に開催する予定である。

(ロ) 平成 24 年度学術奨励賞候補者の推薦及び応募状況 (10 月 31 日締切)

(3) プログラム委員会

①第 65 回学術講演会について

櫻木範明第 65 回学術集会長「IS の応募数が増えており、IS Award 候補演題、受賞演題数を増やすことを検討しており、これを次回理事会に諮っていきたい。」

- ②第 66 回学術講演会について
- ③第 67 回学術講演会について

4) 編 集 (上妻志郎理事欠席につき山下隆博主務幹事)

(1) 会議開催

第 4 回和文誌編集会議ならびに第 2 回 JOGR 全体編集会議を 11 月 2 日に開催した。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況 : 2012 年投稿分 (10 月 19 日現在)

投稿数 852 編 (うち Accept 103 編、Reject 446 編、Withdrawn/Unsubmitted 139 編、Under Revision 30 編、Under Review 126 編、Pending 0 編、Expired 8 編)

(3) 各地方学会・関連学会研究会所在地ならびに講演会開催の掲載伺いの送付

毎年 1 月号に各地方学会、関連学会研究会所在地ならびに講演会開催案内をまとめて掲載しているが、今回も来年 1 月号に掲載すべく伺いを送付した(10 月 12 日)。

なお、関連学会研究会で掲載されていないものがある場合には、順次追加掲載するので編集委員会あてに情報をお願いしたい。

(4) JSOG、AFOG、NFOG、RANZCOG および Wiley-Blackwell との合意書について、ローマでの FIGO World Congress の際に調停式を行った。 [資料:編集 1]

5) 渉 外 (木村 正理事)

(1) FIGO 理事会および総会報告 [資料 : 渉外 1、2]

木村正理事「理事国選出について次回は日本も改選となるが、今回は中国、インドが落選しており、かなりきちんと準備を行っておく必要がある。」

(2) XX FIGO World Congress 2012 視察報告 [資料 : 渉外 3]

(3) 10 月 7 日、ローマにて開催された WATOG (World Association of Trainees in Obstetrics & Gynecology) 総会に、本会代表として東京大学 板岡奈央先生が出席した。

[資料 : 渉外 4-1、4-2、4-3]

(4) FIGO World Congress 2021 招致委員会について
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(5) FIGO World Congress 2021 招致活動の為のアンケート実施について[資料：渉外 5]
木村正理事「海外の活動は人脈が重要であり、各大学の主任教授の先生にアンケートをお願いして情報を集めたい。」
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(6) 外国人名誉会員の推挙について
木村正理事「FIGO Past-President の Gamal I. Serour 先生を推薦したい。」
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(7) 23rd Malaysian International Congress of Obstetrics & Gynaecology (2013年5月30日～6月2日、クアラルンプール) でのシンポジウム参加依頼について[資料：渉外 6]
小西郁生理事長「学術と相談して若手の先生に参加してもらいたい。」
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(8) 丸尾猛先生からのお礼状について [資料：渉外 7]

6) 社 保 (吉川裕之理事)

(1) マグセントの効能追加について

厚生労働省保険局より、公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについての通知があり、マグセントの効能および用法等について保険適用が可能となった。ホームページに掲載して会員に周知した。[資料：社保 1]

7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

(1) 日本専門医制評価・認定機構

11月10日に東京国際フォーラムで開催予定の「第4回市民健康フォーラム—安全・安心な医療と専門医—」の案内を受領した。[資料：専門医 1]

8) 倫理委員会 (落合和徳委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 24 年 10 月 22 日)

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：45 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：572 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：572 施設
- ④ 顕微授精に関する登録：510 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

10月22日現在申請 297 例 [承認 247 例、非承認 4 例、審査対象外 18 例、取り下げ 2 例、照会 7 例、審査中 19 例] (承認 247 例のうち 7 例は条件付)

(3) 母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する検討委員会の第2回会合を11月1日に開催した。
[資料：倫理 1、1-1]

久具宏司委員長「第2回会合では、看護系、遺伝カウンセラー、社会学、ダウン症協会の方々から

の意見をいただき有意義であった。13日のシンポジウムを経て12月の理事会に指針案を提出する予定である。」

(4) 公開シンポジウムについて [資料：倫理2]

開催日時：11月13日(火) 14時～17時

開催場所：東京コンファレンスセンター・品川 5階大ホール (500名収容)

テーマ：「出生前診断—母体血を用いた出生前遺伝学的検査を考える」

プログラム：7名のパネリストによる講演(各15分)、パネルディスカッション(60分)

(5) 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会への出席依頼

日本医学会臨床部会「遺伝子・健康・社会」検討委員会から、母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する検討委員会関係者に11月16日に開催予定の第4回会合に出席して検討内容の報告をいただきたい、との依頼があり、小西郁生理事長が出席することになった。

[資料：倫理3]

(6) 「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解／考え方」改定案について

[資料：倫理4]

吉川史隆理事「この見解の対象は本会会員以外の人も想定しているようにも読める。」

落合和徳副理事長「本会会員向けのものであり、誤解のないようにしたい。」

木村正理事「例えば農学部などの生命系の先生が研究を行う際に卵子等を譲渡してほしいというケースで、その先生にはこの義務は課さないということか。」

落合和徳副理事長「役所が定めたガイドラインが上位概念であり、そこで縛っている。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(7) 会議開催

①「平成24年度第2回着床前診断に関する審査小委員会」を11月13日に開催し、会議冒頭において会員のIVFなんばクリニック中岡義晴先生、IVF大阪クリニック福田愛作先生と着床前診断に関する意見交換を行う予定である。

②「平成24年度第2回倫理委員会」を11月27日に開催する予定である。

(8) 財団法人鳥取市人権情報センターより、出生前診断をテーマに同センター機関誌への寄稿依頼があったが、本件は謝絶することとした。 [資料：倫理5]

9) 教育 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

第65回学術講演会時「若手医師による学術企画」打合会を本日11月2日常務理事会終了後に開催の予定である。

(2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

10月24日現在、入金済6,138冊、校費支払のため後払希望18冊。

(3) 「若手のための産婦人科プラクティス」頒布状況について

10月24日現在、入金済254冊、校費支払のため後払希望89冊。

(4) 平成25年度専門医認定試験問題作成について

平成25年度専門医認定試験問題作成委員会について、各分野の責任者ならびに主幹事を選定し責任者からご推薦いただいた各分野の委員8～10名に対し試験問題の作成を依頼した。試験問題作成締切は12月20日。第1回試験問題作成委員会を平成25年2月1日に開催の予定である。

(5) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部奨学金平成25年度給付開始者募集について

標記案内を西日本地域の大学学（部）長と産科婦人科教授宛に発送した。今回は掲示案内を作成するとともに各大学学生課にも参考資料として送付し、大学学（部）長・教授ならびに学生課が情報を共有し募集にあたって頂けるように心がけた。応募締切は12月20日としている。

(6) 電子書籍発刊について

来春発刊すべく用語集・用語解説集の冊子版の校正を順次進めているが、用語集・用語解説集の電子版とリンクをはる予定で産婦人科研修の必修知識電子版2013を同時発刊の予定で作業を進めている。

電子版の両誌を購入した場合には産婦人科研修の必修知識の用語をタッチ、選択するとその用語の解説が小窓で見られるとのことで次回12月14日教育委員会の際に杏林舎により最終デモンストレーションを行ってもらおう予定にしている。

(7) 関連学会等での書籍販売について

10月13～14日山形市で開催された日本女性医学学会ならびに10月28日に甲府市で開催された関東連合学会において本会編集の5誌の販売を行った。

10) 地方連絡委員会（落合和徳副理事長） 特になし

Ⅲ. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（嘉村敏治委員長）

(1) 会議開催

11月1日に第2回広報委員会を開催した。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ホームページについて

①ホームページアクセス状況 [資料：広報2]

②会員専用ページのMSD バナー広告の掲載継続が決定した。

嘉村敏治委員長「本会ホームページへの各委員会からの新規掲載、改定については、重要な情報の周知洩れをなくすため、総会や理事会等の議事録掲載や常務理事会等で掲載が承認された件を除き、広報委員長あてに事前に連絡するようにお願いしたい。また、ホームページの内容の引用・転載依頼が多方面からあるが、広報委員会で内規を作成している。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

嘉村敏治委員長「会員管理、生涯教育、eラーニングなどを行うe医学会について検討してきた。本会にとってメリットがあると思われるので、広報委員会内に作ったe医学会ワーキンググループの阪埜浩司幹事から報告していただく。」

阪埜浩司幹事「喫緊の課題は専門医制度への対応である。現在の研修履歴管理は紙ベースであり、全体像が把握できていない。今後の日本全体の専門医制度の展開を考えると対処が必要である。また研修の代替としてのeラーニングも不可欠であると考えている。」

嘉村敏治委員長「次回の常務理事会でプレゼンを行いたい。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

2) 未来ビジョン委員会（吉村泰典委員長） 特になし

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 日本学術会議東日本大震災に係る学術調査検討委員会より、「東日本大震災に係る協力学術研究団体の活動の調査(第2回)」の依頼があった。東日本大震災および東電福島第一原発事故に関連した本会の活動を報告するが、報告内容については、公開を可とすること、国会図書館への情報提供を了承することとしたい。[資料:震災対策1]

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(2) 福島県内の基幹病院への産婦人科医派遣要請について [資料:震災対策2、3、4]

岡井崇副理事長「自発的な支援意思のある先生に参加していただくことが重要なので、派遣先の状況をお知らせし、まずアンケートを取った上で検討したい。」

八重樫伸生理事「東北大学からはすでに福島県内の各病院に行ってもらっている。今回の問題は本来福島にいた先生が家族の関係でいなくなっている、ということで、他地域の医師不足とは意味が違っていると思う。」

水沼英樹委員長「アンケートは大学に対して取ると思うが、大学に属していない一般の会員にも福島の状況と学会のサポートを知らせることは必要だと思う。」

本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」頒布状況について

10月24日現在、入金済13,565冊、後払希望22冊。

②平成24年度第3回作成委員会を11月14日に開催する予定である。

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2011」頒布状況について

10月24日現在、入金済10,972冊、後払希望19冊。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長) 特になし

吉川裕之学会側調整役「急性腹症のガイドラインについて、発行者側の複数の学会のなかに本会の名前が出る方向にある。その場合、ガイドライン産科編委員会、婦人科外来編委員会の意見を聞いたりコンセンサスを得るということになるかもしれない。」

5) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長) 特になし

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 会議開催

平成24年度第2回委員会を12月14日に開催する予定である。

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下俊行委員長)

(1) 会議開催

①10月18日に第65回日本産科婦人科学会学術講演会男女共同参画・女性の健康週間委員会企画シンポジウム第1回打ち合わせ会を開催した。

②11月28日、第2回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催の予定である。

(2) 地方学会担当公開講座について [資料：男女共同参画 1]

(3) 女性の健康週間 2013 活動について [資料：男女共同参画 2]
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

(4) 日本赤十字社医療センター産婦人科 木戸道子先生に委員を追加委嘱したい。
本件につき、特に異議はなく全会一致で承認された。

8) 若手育成委員会 (齋藤 滋委員長欠席につき、金内優典主務幹事)

(1) 会議開催について

第6回産婦人科サマースクール若手委員反省会を10月26日に行った。

(2) 第6回産婦人科サマースクールDVDは作成に予定よりも時間がかかっているが11月初旬には各大学に送付の予定としている。

なお、産婦人科サマースクールの会計報告もDVD作成後となることをご了承いただきたい。

(3) 公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団若手産婦人科医育成基金第3回産婦人科スプリング・フォーラム参加者推薦ならびに募集

各地方学会宛に推薦依頼ならびに各大学産科婦人科宛に参加者の募集告知の願いを送付した。各地方学会からの推薦締切は11月末日、参加募集締切は12月20日であり各地方学会からの推薦者を優先に参加者を決定する予定である。

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長) 特になし

10) 医療安全推進委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 日本医療安全調査機構より、安全情報「警鐘事例」のご案内を受領した。

[資料：医療安全 1]

(2) 医療安全全国共同行動より、医療安全全国フォーラムおよび医療安全全国共同行動連絡会議の開催案内を受領した。[資料：医療安全 2]

岡井崇副理事長「医療安全全国フォーラムには鈴木真先生と石渡勇先生に、医療安全全国共同行動連絡会議には海野信也先生に出ていただくことになっている。」

III. その他 特になし

以上